

## 松田新四郎の碑

十九世紀に口永良部島の頭であった松田新四郎を称える記念碑が、旧小学校跡にある彼の墓の隣に立っています。1857年、九州の薩摩藩がこの島で強制労働による製糖業を開始した際、新四郎と二人の仲間は島民が無理やり働かされるのを防ごうとしました。しかし、この三人は生産を妨害する計画の首謀者として収監され、木製の棒で打ちたたかれました。三人のうち唯一生き残った新四郎は、重傷を負いましたが、この島の強制労働に終止符を打つことに成功しました。彼はその後の人生をこの地域のために無報酬で働くことに費やしたのだそうです。

新四郎はまた、口永良部島に入港するカツオ漁船から税を徴収する制度を導入し、その税収入を利用してこの島の整備を賄ったことで評価されています。彼はその人生をこの島の発展に捧げ、植林やその他の活動を推進しました。新四郎の業績はこの記念碑に刻まれています。